

健康通信

動脈硬化について



▲第2循環器科部長 小川 恭弘

動脈硬化は加齢、高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙などの影響を受けて進行していきます。

その結果、体の臓器への血液の流れが悪くなり、虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）あるいは脳卒中（脳梗塞、脳出血）などを生じることがあります。

動脈硬化はこれら、心臓や脳だけに生じるのではなく、全身疾患であるためその他の血管に動脈硬化が及ぶとさまざまな症状がみられることがあります。

今回はその中でも、腕や足への血流障害によって生じる閉塞性動脈硬化症と腎臓に血液を送る腎動脈の動脈硬化によって生じる腎動

市民病院より

管性高血圧についてお話しします。
閉塞性動脈硬化症

主に下肢の動脈や大動脈が細くなったたり、つまったりして充分な血液を送れなくなるため、歩行時に足のしびれ、痛み、冷たさを感じ、しばらく休憩すると症状が和らぐのが特徴です。

病状が進行すると安静時にも症状が現れることがあります。

診察時に手足の脈の強弱をみることで血流障害があるかどうか判定することが可能で、必要に応じて両腕、両足の血圧を同時に測定する検査やCTなどによる血管撮影を行うこともあります。

病状に応じて運動療法、薬物療法、バルーンで血管を広げたり、ステントとよばれる金網でできたパイプを留置するカテーテル治療、バイパス手術などの治療を行います。

腎血管性高血圧

腎臓に血液を送る腎動脈が細くなるために血圧が高くなる病気（高血圧患者さんの1%程度）で腎動脈が細くなる原因の一つに動脈硬化があります。

若年者の高血圧や薬物療法を行

問合先 市民病院（☎76-4131）

ってもなかなか血圧の下がらない患者さんの中にこの病気を患っている方がみえます。

診断は腹部の聴診、血液検査、超音波検査、CT検査などで行います。血圧をコントロールするために血圧を下げる薬を服用したりカテーテルによる治療を行います。カテーテルによる治療で薬を減量したり、服用しなくてもよくなることもあります。

このように動脈硬化は全身にさまざまな症状を起こします。動脈硬化を進行させないように適度な運動、禁煙、食事制限などの生活習慣に注意することが大切です。

また、少し歩くと足のしびれや、痛みのために歩けなくなり、しばらく休憩するとまた歩けるようになるといった症状のある方や、若年発症の高血圧の方、何種類も血圧を下げる薬を飲んでいないけれどもなかなか、血圧が下がらないといった場合には一度、専門医の受診をお勧めします。

◆お知らせ カムバック研修の開催

市民病院は、手厚い看護の配置が質の高い看護サービスにつながり、それが、患者さんの安全・安心を支える大きな力となり、地域住民の健康を守ることにとなると考えます。

しばらく臨床から離れている助産師・看護師で、市民病院に興味があり、再就職を考えている方のカムバック研修への参加をお待ちしています。また、平成25年から、カムバック研修は毎月開催します。

内容 病院・看護局の概要、スキニングケア・創傷処置、誤刺防止医療器材、病院見学、病棟体験など

とき 1月28日(月)、2月25日(月)午前8時40分～午後3時30分

ところ 市民病院8階講堂

対象 当院に再就職を希望している助産師・看護師

料金 無料

託児 3歳未満児を院内保育所で預かります。

※昼食および病棟体験時の白衣を用意します。(サイズ：S、M、L) ※動きやすい服装でお越しください。

申込・問合先 研修日の7日前までに電話で市民病院看護局（☎76-4131）